

# 教科教育学の実践的検証の開講に向けて

## —授業構想とフィールドワークの環境整備の現状—

鈴木 明子（人間生活教育学講座）

草原 和博（社会認識教育学講座）

檜葉 みつ子（英語教育学講座）

### 要約

本稿では、教科教育学の専門性に基づいた「リサーチ力」、すなわち、教科の特性や目的を実現する授業の開発・実践または調査・分析を通して、教科教育学の理論を再構築できる知識・能力を育成しようとした「教科教育学の実践的検証」の準備の概要を示す。

### I 共通選択科目の理念と授業構想

平成28年度後期から「教科教育学の実践的展開」が開講され、8教科27名が履修した。その成果を検証することを目的として、本科目「教科教育学の実践的検証」が平成29年度前期に開講される。これら2科目は双方を履修することを条件としている。

これら2科目を運営していくにあたり、関係者によって「教科教育学の実践的展開・検証」実施運営委員会を平成28年9月7日に立ち上げ運用上の内規を作成した。その設置に至るまでの準備委員会において、授業担当者によって、これら共通選択2科目の理念と目標が検討された。それは次の通りである。

「教科教育学の実践的展開」及び「教科教育学の実践的検証」2科目の理念

2つの科目履修によって、大学院生に教科教育の専門性に基づいた「リサーチ力」をつけることを目的とし、多様な立場の大学院生がそれぞれの立場で、フィールドワーク校の教科の状況に応じて、実践的研究者あるいは研究的実践家として目標達成できるような形態を目指すこととする。

「教科教育学の実践的展開」の目標と概要

【授業の到達目標】教育現場における現代的・実践的な課題に対し、それを解決するための研究方法を理解することができる。

【授業の概要】各科教育学の知見を生かして、演習的な展開により、授業実践力向上のための理論と研究方法論を学ぶ。

「教科教育学の実践的検証」の目標と概要

【授業の到達目標】教育現場における現代的・実践的な課題に対し、それを解決するための研究方法を身につけることができる。

【授業の概要】各科教育学の知見を生かして、フィールドワークを中心とした展開により、授業実践力向上に向けた実践研究の計画・実施・検証を行う。フィールドワークの実施は教科単位で実施する。

「教科教育学の実践的展開」についてはすでに終了し、その成果については、別稿で報告されたとおりであるが、その最終回で「同検証」の事前ガイダンスが行われた。「展開」の授業の成果として、「教科」や「教科教育学」への認識が深まり、自教科を俯瞰的にみて、その独自性や他教科との多様な連携の在り方の可能性についても理解が深まったと思われる。

それらを踏まえて、「検証」では自教科の独自性を追究しつつ、得られた知見をフィールドワークに活かすことを期待したい。「展開」の履修者27名のうち、社会人院生等履修が不可能な院生を除く24名が「検証」を履修する予定である。

「検証」の授業計画（予定）は次のとおりである。

（フィールドワークについては各教科の状況、附属学校の環境を考慮して対応するものとする。）

- 第1回 教科指導の構想①【大学で教科別に実施】
- 第2回 教科指導の構想②【大学で教科別に実施】
- 第3回 フィールドワーク①（附属学校での教科指導の観察）  
…1コマ相当分（50分の観察と40分の協議×1回）
- 第4回 教科指導の構想③【大学で教科別に実施】
- 第5回 実践研究の構想発表会【大学で合同】 6月初旬から中旬頃？
- 第6回 フィールドワーク②（附属学校での教科指導の実施と協議1）
- 第7回 フィールドワーク③（附属学校での教科指導の実施と協議2）
- 第8回 フィールドワーク④（附属学校での教科指導の実施と協議3）
- 第9回 フィールドワーク⑤（附属学校での教科指導の実施と協議4）
- 第10回 フィールドワーク⑥（附属学校での教科指導の実施と協議5）
- 第11回 教科指導の分析と省察①－実践記録の検討－【大学で教科別に実施】
- 第12回 教科指導の分析と省察②－改善案の検討－【大学で教科別に実施】
- 第13回 教科指導の分析と省察③－成果発表会の準備－【大学で教科別に実施】
- 第14回～第15回 実践研究の成果発表会とまとめ【大学で合同】

平成28年度担当教員（「教科教育学の実践的展開・検証」実施運営委員会）は次の通りであった。自然：松浦・三好，数学：影山，技情：長松・谷田，社会：草原（副委員長），国語：間瀬，英語：兼重・檉葉（副委員長），健スポ：齊藤，人生：鈴木（委員長），音楽：三村・伊藤，造形：三根・蜂谷，TA:大坂（社会認識），守谷（社会認識），河原（社会認識）

## Ⅱ フィールドワークのため環境整備

本科目のフィールドワークの場合は、4つの附属学校において教科単位で行うこととし、附属中・高等学校で3教科，附属福山中・高等学校で3教科，東雲中学校で1教科，三原中学校で1教科が行うこととした。「大学の授業6コマ相当」というフィールドワークの時間は教科共通に設定し，院生が自分のテーマをもって附属で観察，実践，協議し，それを大学にもち帰って検討することを基本的な内容として考えている。

一方で，研究的授業の実施方法については，各附属学校及び各教科の実態に応じて，従来型のアクションリサーチを含めて，附属学校と大学双方の相談で実施するという柔軟性をもちたいと考えている。「展開」及び「検証」の理念は，「大学院生に教科教育の専門性に基いたリサーチ力をつけることを目的とし，多様な立場の大学院生がそれぞれの立場で，フィールドワーク校の教科の状況に応じて，実践的研究者あるいは研究的実践家として目標達成できるような形態を目指す」ものとして，教職大学院との差別化を図る必要がある。すなわちこれらの科目は，これまでの高度化プログラムのように，実践家を志す院生のみを対象として行われる科目ではなく，教科教育学の研究者を志す院生にも何らかの

成果をもたらすことができる場として提供することになる。さらに、これらの院生が共に学び関わる中で有効な学びの場が構築されることを目指している。研究的授業の実施方法については、多様な状況を考慮して来年度の開講に向けて準備を進めたいと考えている。